

第 8 期

事業報告書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

 株式会社DNAチップ研究所

ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第8期（自平成18年4月1日 至平成19年3月31日）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当社の主たる売上の元となるチップの販売と研究受託／受託解析サービスにつきましては、DNAチップ市場全体の伸びが鈍化している上に、顧客ニーズが多様化し、従来の製品メニューだけでは市場ニーズに応えられず苦戦を強いられました。特に、チップ解析の結果をバイオインフォマティクスで解析するサービスを求める顧客が増加してきました。そこで、市場ニーズの多様化への対応、及び当社が得意とする遺伝子発現解析技術を更に活用するためアジレント社との連携を進め、アジアで唯一のCertified Service Provider認定を受けて、網羅的な高感度アレイからテーマ毎に遺伝子を絞り込んだカスタムアレイまで、幅の広い研究者の要求に応えられるマイクロアレイの供給や受託解析サービスを行えるようにいたしました。これによって、業績は徐々に立ち上がりはじめました。

機器／ソフトウェアにつきましては、イルミナの高性能シーケンサーであるSolexaとアジレント製品の販売を開始しました。

このような状況ではありますが、チップの利用方法がバイオマーカの探索を目的とした目的別チップや抗体チップ等へ広がっていること、及びアジレント社との戦略的提携が第4四半期にしか貢献できなかったため売上高が未達となり、これにより利益額が減少しました。また当社は、近づいた個人化医療の時代到来に備えて診断等に関わるRNAチェック技術の開発に力を入れておりますが、この時点で欠かせない研究開発投資が増加し、利益を圧迫しました。

この結果、業績が当初見込みより大幅に落ち込み、株主の皆様のご期待に反しましたことを大変申し訳なく存じております。

第9期につきましては、アジレントのマイクロアレイサービスを好む製薬会社、化粧品会社、食品会社からの受託解析サービスの受注確保と、コンパスタップを好む臨床研究者及び大学、研究所からの受託解析サービスの確保を進め、併せて大手研究機関からのSolexa及びアジレントライフサイエンス機器販売の拡大を図り、業績を改善していく所存であります。

中期的には、DNAチップビジネスを取り巻く環境は、上掲のように個人化医療時代に向けてDNA検査ビジネスが立ち上がる必然性があり、当社は当面競合のないRNA解析分野を主たる活動の場とすべく、さらなる研究開発を進め、診断等に適したチップ技術の開発とならんでコンテンツ開発に特色をもつ企業として、ビジネス展開を図ってまいる所存です。

株主の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 松原 謙一

会社の現況

前期の状況（自平成18年4月1日 至平成19年3月31日）

当事業を取り巻く環境は、医療費抑制策の強化や受診料個人負担の増加等により、国内市場拡大が抑制される傾向が続いておりますが、一方では第5次医療法改正による、いわゆる「混合医療」に係る規制緩和をはじめ、制度面での大きな変化が予想されるなど、先端医療の普及を促進する環境が整いつつあります。また、社会の急速な高齢化や死因の上位を占める癌や肥満等のメタボリック・シンドロームに対する予防医療の必要性が高まってきており、これに伴う研究開発競争は熾烈化しております。

このような状況下において、当社は個人化医療実現時の診断ビジネスの早期展開に向けた診断チップの開発や関連事業会社とのアライアンス推進等主要テーマに資金を投入し、さらなる事業基盤の確立を加速していくことを目的として、平成18年6月に第三者割当てによる第1回無担保転換社債型新株予約権付社債を発行しました。さらに、平成18年11月に米国Agilent Technologies Inc.（以下「アジレント」）と戦略的提携契約を締結し、市場ニーズに沿った幅の広い研究者の要望に応えられるマイクロアレイの供給や受託解析が可能になりました。また、開発部門、営業部門それぞれに経験豊富なマネージャーを採用し、体制の充実・強化を図りました。

セグメント別事業状況は次のとおりです。

研究開発事業においては、公立機関の研究受託公募に新技術を活用した研究開発を積極的に提案し、前期に引き続いて経済産業省関東経済産業局及び社団法人バイオ産業情報化コンソーシアムに提案が採択されました。また、新たに科学技術新興機構の「平成18年度革新技術開発研究事業」及びNEDO「平成18年度課題設定型産業技術開発助成金」への提案が採択されました。

新製品開発においては、平成18年4月に従来製品の約2から5倍程度の感度向上を図った「AceGene Premium Human」、東レ株式会社との共同開発製品である「3-D Gene yeast Oligo Chip 6k」をそれぞれ開発完了し販売を開始するとともに、DNAチップに搭載されるオリゴプローブ自体を独自技術により高性能化した「ProbeBank」を開発し、受託解析サービスの受注を推進しました。さらに、平成18年11月からは、アジレントのマイクロアレイを用いた受託サービスを開始するとともに、大手製薬会社からアジレントのマイクロアレイを用いた受託解析サービスを受注しました。

しかし、DNAチップの使用方法が多様化し、このため同業者間の競争が激しくなっております。また、アジレントとの戦略的業務提携の効果が第4四半期にしか貢献できませんでした。

その結果、当期の売上高は310百万円（前年同期比99.9%）となりました。

商品販売事業においては、汎用チップは4月から網羅的酵母チップを販売開始しましたが、顧客のチップの利用方法が多様化し、従来のように網羅的なチップだけでは市場の要望に対応できなくなっております。この対策として、多様なチップを品揃えているアジレントとの業務提携によりアジレントのチップ販売を開始しましたが、この効果が第4四半期しか貢献できませんでした。

一方、一般機器は第4四半期から米国イルミナ社の高機能シーケンサであるSoIexaの販売を開始し、第1号機を独立行政法人理化学研究所に納入いたしました。

その結果、当期の売上高は476百万円（前年同期比106.1%）となりました。

以上のことから、当期の売上高は787百万円（前年同期比103.6%）、利益面では、経常損失342百万円、当期純損失410百万円となりました。

当期の見通し（自平成19年4月1日 至平成20年3月31日）

平成16年4月からの国立大学の法人化等に伴う大学、研究所による買い控えなどは、次年度もその影響は続くことが予想されます。

このような環境の中、当社は、従来の大学、研究所中心のビジネスに加え、製薬会社、食品会社等の企業向けビジネスの拡大を目指し、大口顧客に対して、新技術による治験支援やバイオマーカーの探索を目的とした高感度チップならびにアジレントの各種マイクロアレイによる受託解析サービスの提案活動を積極的に進めてまいります。また、解析に時間をかけられない臨床研究分野の研究者、さらに、これまでDNAチップを利用しなかった新たな顧客にとって最適な、約100種類のヒトの遺伝子ネットワークに関わる約4,000種類の主要な遺伝子を抽出したパスウェイ解析型高性能DNAチップ「ConPath」と、その解析ツールである「ConPath Navigator」による新受託解析を開始する予定です。今後はさらに特定の遺伝子群に着目した目的別チップ、パスウェイ解析用チップ等を順次製品化していくことにより、汎用チップの売上拡大を図るとともに、これら汎用チップを利用した受託解析サービスの受注拡大を推進する計画です。

一方研究開発については、前期に引き続き将来の個人化医療への対応として、癌診断チップの試作と試用を進める予定です。また、新事業推進部を中心にメタボリックシンドロームや免疫関連等に的を絞った将来の個人化医療に向けたRNA診断（以下「RNAチェック」）のためのチップの開発や関連事業会社とのアライアンスを推進し、RNAチェックビジネスの早期事業の立ち上げを図ります。これらの研究開発活動推進のため、本事業年度の研究投資額は前年度と同程度の支出を見込んでおります。

これらの取り組みの結果、平成20年3月期の業績は、売上高820百万円、経常損失298百万円と見込んでおります。

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想に内在するさまざまな不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績と異なる場合がありますので、ご承知おきください。

前期決算概要

決算サマリー



項目	2006年3月期	2007年3月期			対前年度比
		(予想値) ^(注2)	(実績)	比	
売上高(千円)	759,877	1,000,000	787,120	79%	104%
経常利益(千円)	△262,688	△299,000	△342,306	—	—
特別損失(千円)	0	0	△67,500	—	—
当期純利益(千円)	△272,383	△300,000	△409,806	—	—
研究開発投資(千円)	150,205	—	223,810	—	149%
総資産(千円)	1,353,215	—	1,959,976	—	145%
純資産(千円)	1,086,992	—	1,675,972	—	154%
発行済株式の総数(株)	27,200	—	33,897	—	125%
一株あたり純資産額(円) ^(注3)	39,962.97	—	49,443.10	—	124%
一株あたり当期純利益(円) ^(注4)	△10,014.10	—	△11,359.33	—	—
経常利益率(%)	△34.6	—	△43.5	—	—
自己資本比率(%) ^(注1)	80.3	—	86.0	—	—

(注1) 自己資本比率も高く、財務状況的に問題はない

(注2) 予想値は、2006年10月23日に公表した2007年3月期業績予想修正数値である。

(注3) 一株あたり純資産額：期末純資産÷期末発行済株式数

(注4) 一株あたり当期純利益：当期純利益÷期中平均株式数

事業区分別業績



(金額単位：百万円)

項目	2006年3月期		2007年3月期		対前年比 (%)	説明
	売上高	比率	売上高	比率		
研究受託 事業	日立ソフト	84.0	11%	36.0	4%	【説明1】
	公募関連	43.4	6%	94.8	12%	
	一般(受託解析)	182.9	24%	179.4	23%	
	計	310.3	41%	310.2	39%	
商品販売 事業	汎用チップ	181.7	24%	113.8	15%	【説明2】 【説明3】
	開発機器	149.3	20%	127.3	16%	
	一般機器	118.6	16%	235.8	30%	
	計	449.6	59%	476.9	61%	
合計	759.9	100%	787.1	100%	104%	

【説明1】

2006年3月期からの業務分担の明確化により、日立ソフトからの研究受託費が対前年度比43%(36百万円)と減少。一方、受託解析は顧客のチップ使用の多様化に伴いAceGeneによる受託解析は減少したが、11月から開始したアジレントマイクロアレイによる受託解析の提案活動を積極的に進めた結果、大手製薬会社から大口の受託を受注。また、公募関連の受注が増加し、その結果研究受託事業は対前年度比100%(310百万円)となった。

【説明2】

チップ全体の市場があまり拡大していない状況で、顧客のチップ使用法が多様化し、AceGene(Human Oligo 30K、Mouse Oligo 30K on one chip)等汎用オリゴチップの販売は、対前年度比63%と大幅に減少。

【説明3】

業務分担の明確化により、開発機器等日立ソフトの開発した機器の販売は日立ソフトが担当。新たにSoLexaやアジレント等のライフサイエンス機器の代理店として開発機器の売上減少をカバー。

決算ハイライト

区分	対予想 値比	内訳	対予想 値比	説明
売上高	79%	研究受託／ 受託解析サービス	103%	(1) DNAチップ市場全体の伸びが鈍化している上に、顧客ニーズが多様化し従来の製品メニューだけでは市場ニーズに応えられず苦戦を強いられた。 (2) アジレントとの連携の成果として、市場ニーズに沿ったチップの供給や受託解析サービスが可能になり、受託解析サービスについては徐々に立ち上がり始めた。
		汎用チップ	83%	(1) 顧客のチップの利用方法が多様化し網羅的チップからバイオマーカーの探索を目的とした目的別チップや抗体チップ等へ広がっている。
		機器／ ソフトウェア	65%	(1) イルミナの高性能シーケンサーであるSolexaやアジレント製品の販売開始が、第4四半期以降と出遅れた。
経常利益	—	▲342百万円	(1) 売上高の未達により、利益額が減少した。 (2) RNAチェック技術の開発等、研究開発投資が大幅に増加(対前年度比147%)し、利益を圧迫した。	

今期業績向上に向けて

今期計画

項目	2007年3月期 実績	2008年3月期 予想	対前年度比 (%)
売上高(千円)	787,120	820,000	104
営業利益(千円)	△335,270	△300,000	—
営業利益率(%)	—	—	—
経常利益(千円)	△342,306	△298,000	—
経常利益率(%)	—	—	—
当期純利益(千円)	△409,806	△300,000	—
研究開発費(千円)	223,810	200,000	89
設備投資(千円)	16,652	30,000	180

- 売上高 : 研究受託事業 → アジレントのマイクロアレイを核にした製薬会社、化粧品会社、食品会社からの大口受託解析サービスの受注確保とConPathチップによる臨床研究者及び大学、研究所からの受託解析サービス確保。下期からはRNAチェックによる健診ビジネスを一部開始(310百万円→358百万円)
商品販売事業 → 理研、産総研等の大手研究機関からのSolexa受注及びアジレントライフサイエンス機器販売の拡大、日立ソフトとの共同開発による開発機器販売は減少(477百万円→462百万円)
- 営業利益 : 研究受託、受託解析サービス比率の増加による利益増加(比率: 39%→44%)。研究投資額は前年度並み
- 研究開発費 : 【2008年3月期主な研究開発投資内容】
(1) 血液による生活習慣病、免疫関連疾患診断法の研究(埼玉医科大学、金沢大学、大阪大学等)
RNAチェックによるリウマチ薬剤効果診断、糖尿病診断技術の開発。2008年3月期に一部事業化を開始
(2) 大阪大学とのがん診断チップ試行
大学内病院及びコンソーシアム等での評価と改良継続
(3) ConPathチップ等目的別、バスウェイ解析用チップの開発(受託解析サービス向チップと解析ソフトウェアの開発)
産業技術総合研究所、住友ベークライト、日本ガイシ等との共同開発

1. 受託サービス受注への集中と拡大

■ 受託解析サービスの強化

- ・アジレントCSP(Certified Service Provider)認定の優位性を活用した製薬会社、化粧品会社、食品会社等民間会社からの受託の確保
- ・ConPath™チップを活用した臨床研究分野向け受託解析サービスの強化
- ・住友ベークライト、日本ガイシと連携した顧客の研究テーマに合わせた高感度カスタム・チップ受注の拡大
- ・受託解析の自動化による作業効率向上と、精度の向上

■ RNAチェック技術開発による健診ビジネスの開始

- ・リウマチにおける薬剤効果診断ビジネスの試行と一部事業化を開始
- ・解析結果データに対するセキュリティ管理・品質保証体制の整備

2. ライフサイエンス関連機器販売の強化

■ 市場での評価の高い機器、海外製新製品等の販売チャンネル確保

- ・イルミナの高性能シーケンサであるSolexaの販売強化
- ・アジレントのライフサイエンス機器の販売強化

1. 顧客のニーズに応える製品

■ 高付加価値チップ、教育用チップの開発と作製

- ・目的別・パスウェイ解析用チップの商品化と種類拡大(H19/5末開始)
- ・バイオ関連教育向け教育チップの開発と教育現場での試行開始(H19/6試行)

■ 顧客の研究テーマに合わせたカスタム・チップ作製の充実

- ・少量のプローブを搭載したカスタム・チップを大量に作製する場合への対応
→ GENESHOT方式(日本ガイシ、住友ベークライトとの連携)
- ・多数のプローブを搭載したカスタム・チップを少量作製する場合への対応
→ オンサイト合成方式(アジレントとの連携)

2. 材料・解析業務のコスト低減

■ チップ作製素材のコスト低減

- ・プラスチック基板等高性能で低価格基板の採用
- ・産総研との共同開発による新規高品質オリゴの採用

■ 解析工程の自動化

- ・自動化システムの導入による解析作業コストの低減

提携状況

2006年11月の戦略的提携(Authorized Distribution Agreement)に引き続いて、2007年4月にGSP(Certified Service Provider)の契約を締結

GSPを取得したプロバイダー(日本では弊社だけ)には、次のような義務・権利がある。
「定期的にあジレントより受託解析に関する新技術、既存技術の教育を受け、合格するまで再教育される」

したがって、顧客には次のようなメリットがある。

- ①解析結果が信頼性のあるデータである。
- ②アジレントチップの性能を十二分に引き出せる。
例えば、再現性よいデータ、高感度のデータを出せる。
- ③データに不具合があるとき、アジレントと連携をとり、素早い対応がとれる。
- ④新解析技術にすぐ対応できる。

アジレントマイクロアレイを用いた受託解析サービスに対する当社の方針

アジレントのマイクロアレイを用いた受託解析サービスは、次の顧客を重点的に対象とする。

- (1)製薬会社、化粧品会社、食品会社等の民間企業の研究者
- (2)大学、研究所の研究者のうち、多様なマイクロアレイの解析を望む研究者
- (3)多種の遺伝子を搭載した少量のマイクロアレイの作成と解析を同時に必要とする研究者

ConPathチップ

約100種類のヒトの遺伝子ネットワークに関わる約4,000種類の主要な遺伝子を抽出したパスウェイ^(注1)解析型DNAチップ

【特徴】

- (1) 各種生命現象に関わる重要な遺伝子を選択
- (2) 各遺伝子を高い特異性で検出する高純度なDNAプローブを搭載
- (3) 一枚のチップで多検体サンプルの同時解析が可能
- (4) 従来の約1/20分量のRNA量(50ng)で検出が可能

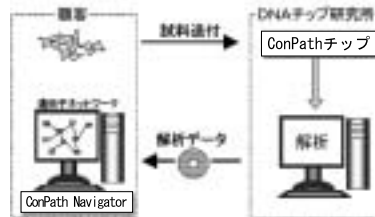
(注1)パスウェイ
一般的にはパスウェイは生物現象をテーマごとに分類したグループであり、パスウェイを構成する遺伝子間の制御、相互作用などの関係を視覚的に表示している。

ConPath Navigator

解析ツールConPath Navigatorは、ConPathチップから得られたデータを取り込み、そのデータを各パスウェイの遺伝子ネットワーク上に反映させることができる

これらConPathチップとConPath Navigatorを併用することにより、通常であれば数週間から数ヶ月間必要なデータ処理、パスウェイソフトの習得及び情報検索等の作業時間を大幅に短縮させることができる。

- 一 解析に時間をかけられない**臨床研究分野の研究者**、さらにこれまで**DNAチップを利用しなかった新たな顧客**が対象

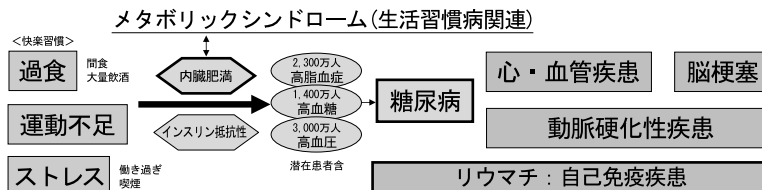


健康クリニック事業分野でのビジネス展開



株式会社DNAチップ研究所

I. 狙い目市場を「メタボリックシンドローム」に焦点化し診断チップの開発



II. 遺伝子解析技術を応用した「健康クリニック事業」の早期立ち上げ

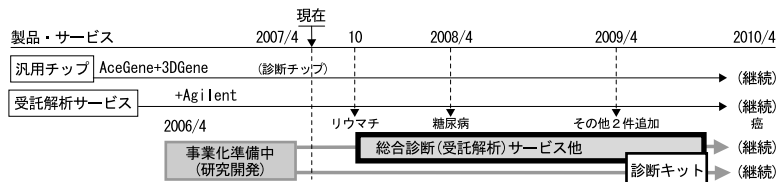
1. 総合診断サービス・ビジネス：特徴はRNA診断を付加した総合診断サービス
従来検査項目に、遺伝子発現データ、情報を付加し、専門医師のコメントを追記した総合診断レポートの提供など
2. 素材評価(治験)試験支援・ビジネス：特徴はDNA/RNA実験・解析サービス
遺伝子マーカー探索支援・食品評価試験(遺伝子発現データ収集)など
3. 健康指導・ビジネス → ヘルシー・ケアビジネス：特徴は生活習慣指導サービス
体質検査(DNA検査)と症状診断(RNA診断)で、発症前段階で、食事指導、運動療法、健康補助食品、サプリメント選択指導など
4. クリニック情報化・ビジネス：特徴は遺伝子診断の啓蒙・普及・サイト支援サービス
クリニック用遺伝子診断カタログのカスタム対応作成・コンサルティング、啓蒙・教育用資料の有償作成など

健康クリニック事業計画

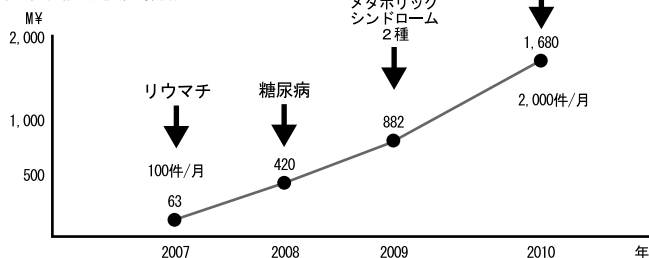


株式会社DNAチップ研究所

1. 開発計画



2. 販売計画：総合診断(受託解析)サービスのみ



貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位 千円)

(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,566,029	流動負債	283,054
現金及び預金	1,160,663	買掛金	247,339
受取手形	88,242	未払金	1,079
売掛金	233,228	未払法人税等	3,638
商品	50,887	未払費用	28,057
研究補助金未決算金	25,000	預り金	2,940
その他	8,007	固定負債	948
貸倒引当金		退職給付引当金	948
固定資産	393,947	負債合計	284,003
有形固定資産	62,291	(純資産の部)	
建物	192	株主資本	1,675,972
工具器具備品	62,098	資本金	1,116,368
無形固定資産	7,991	資本剰余金	1,028,918
ソフトウェア	4,654	資本準備金	1,028,918
施設利用権	582	利益剰余金	469,313
その他	2,754	その他利益剰余金	469,313
投資その他の資産	323,664	繰越利益剰余金	469,313
投資有価証券	122,500	純資産合計	1,675,972
長期性預金	200,000	負債及び純資産合計	1,959,976
その他	1,164		
資産合計	1,959,976		

損 益 計 算 書

(自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日)

(単位 千円)

売							787,120
売	上	原	高				863,482
		総	損	失			76,361
販	売	費	及	び	一	般	258,908
						管	335,270
						理	
						費	
営	業	損	失				
営	業	外	収	益			
受	取	利	息		3,605		
雑	収	益			271		3,877
営	業	外	費	用			
株	式	交	付	費	3,648		
社	債	発	行	費	6,918		
雑	損	失			345		10,913
経	常	損	失				342,306
特	別	利	益				
特	別	損	失				
投	資	有	価	証	券	評	
						価	
						損	
					67,500		67,500
税	引	前	当	期	純	損	
						失	409,876
法	人	税	、	住	民	税	
						及	
						び	
						事	
						業	
						税	
					950		
法	人	税	等	調	整	額	
							950
当	期	純	損	失			410,756

株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当受領株主確定日	3月31日(期末配当金)、9月30日(中間配当金)
定時株主総会	6月
公告掲載方法	電子公告 電子公告は当社のホームページに記載しております。 ホームページアドレス(http://www.dna-chip.co.jp/)
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 本店
事務取扱場所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番2号(東銀ビル3階)
〔お問い合わせ先〕	(フリーダイヤル) 0120-49-7009 TEL 03-3212-4611(代表)
同 取 次 所	東京証券代行株式会社各取次所(*)
株券喪失登録	株券を紛失された方は、上記株主名簿管理人において株券喪失登録の手続きを行うことができます。株券喪失登録を行いますと、株券喪失登録簿に喪失株券の記号番号が登録されて閲覧に供され、1年間喪失登録抹消がなければ、当該株券は失効し、新しい株券の交付を受けることができます。株券喪失登録に要する費用は、10,000円に加えて喪失登録株券1枚につき500円です。

< 諸届用紙の請求 >

住所変更・改印等の変更届、配当金振込指定書、株式名簿書換請求書等の諸届出に使用いたします用紙のご請求につきましては次の方法もご利用になれます。

(24時間、土・日祝祭日もお受けいたします。)

[電話を利用した自動音声応答による受付] (フリーダイヤル) 0120-16-5805

[インターネットによる用紙のご請求]

東京証券代行株式会社のホームページにおいて、用紙の印刷およびインターネットメールによる用紙のご請求がご利用になれます。<http://www.tosyodai.co.jp>

「株式に関する用紙のご請求」、「株式に関する手続きのご案内」、「株式に関する手続きのQ & A」をご参照ください。

(*) 当社の株式に関する事務につきましては、中央三井信託銀行の本店および全国各支店において取次事務を行っております。